

I 現状：八雲町は、自然豊かな地域でありながら、近年の気候変動や自然災害の頻発により、地域住民の安全確保が重要な課題となっている。**特に、防災行政無線が聞こえない条件や地域**が存在し、情報伝達手段の不足が深刻な問題である。

このため、デジタル技術を活用した新たな防災情報システムを導入し、住民に迅速かつ正確な情報を提供することで、安全で安心な生活環境を整備しなければならない。

II 課題：災害時における情報伝達手段に限られており、特に高齢者や障害者などの配慮が重要である。また、新たな屋外拡声子局の増設や戸別受信機の導入には多大な費用がかかるため、持続可能な解決策が求められている。これらの課題を解決するためには、**多重化された情報伝達手段を構築**し、地域全体で防災力を向上させる必要がある。



新たな情報伝達手段として採用したい！

**町公式LINEを活用した災害情報伝達システム
「八雲町デジタル防災サービスLINE型導入事業」を計画**

※LINE国内月間ユーザー
9,700万人以上 (R6.3)

※町公式ライン登録者数
5,327人 (R6.12)

III 概要

- ① 八雲町公式LINEアカウントの改修（現状機能の移行）
- ② 「LINE」を活用したデジタル防災サービス以下6つのメニューを条件予定 ※アプリ開発ではなく、現行の町公式ラインを活用

- 1. 防災マップ機能：ハザードマップや避難所・避難場所を確認できる
- 2. 防災用品チェックリスト：非常用持ち出し品や備蓄品をチェックすることによる災害に対する備えを強化
- 3. 災害情報PUSH通知：町から発信される災害情報を視覚的にわかりやすく表示
- 4. 防災リンク集の集約：任意のURLやコンテンツを設定できる（集約）
- 5. マイタイムラインを作成：平時・災害発生時の行動を登録。いざという時の防災行動を取るための備えを強化
- 6. 安否確認機能：登録者による家族や友人の安否情報を確認できる

- ③ 実証試験により機能性向上の追加（平時から発生・避難時までの行動をサポート）

- 7. デジタル避難所チェックイン：QRコードを活用した避難所のチェックインを実施・情報の可視化
- 8. 防災行政無線：防災無線と連携した情報をスマートフォンへ配信することで災害時に伝達手段の多様化を実現
- 9. 個別避難計画作成支援：計画作成ツールの管理による避難行動要支援者の迅速な避難支援を推進。

IV デジタルを活用した課題解決イメージ： ① 防災意識の醸成 ② 多様な情報伝達手段 ③ 適切な避難行動支援
④ 防災士・地域防災マスター・防災関連団体との意見交換等に活用し改善を図る